

2018年9月21日

広島県知事  
湯崎英彦 様

2018年9月13日付けのお手紙をありがたく拝見しました。国連事務総長代理として2回目の平和記念式典に出席できたことを光栄に存じます。今回も式典に深く感動し、核兵器全廃に向けての取り組んでいく決意を新たにいたしましたところでございます。

また、会合におきまして有益なお話ができたと、大変ありがたく思っております。

事務総長は、軍縮の取組に青少年に関わってもらふことを、優先課題と位置付けており、青少年は「変革の大きな力」であるとしています。よって、このたび、「ひろしまジュニア国際フォーラム」に対してメッセージをお送りできることを喜んでおります。

我々の共通の課題である核兵器のない世界の実現のため、一緒に取り組んでいくことを期待しております。

ここに貴職に対する敬意を表します。

国連事務次長（軍縮問題担当上級代表）  
中満 泉

## 国際連合 軍縮部

### ひろしまジュニア国際フォーラムへの中満泉国連事務次長からのメッセージ

はじめに、皆さんに対し、深く敬意を表したいと思います。核軍縮という重要な課題に向けた皆さんの努力に感謝申し上げます。第2次世界大戦以降、使用されていないこの兵器をなくそうという取組は、ともすれば抽象的な努力に見えるかもしれませんが、核兵器使用による破滅的結末は極めて現実的で恐ろしいものです。

気候変動への取組などの世界における重要な課題と同様に、皆さんの世代は、私達の世代が歴史の中へ消えた後も、長く現在の失敗に対処していかなければなりません。そのため、国連事務総長は今年初めに打ち出した軍縮アジェンダ「Securing Our Common Future（人類の未来を守る）」の重要なポイントとして、若者のエンパワメントを位置づけたのです。

実際、この問題は、これまでになく行き詰っています。広島と長崎の原爆投下から73年が経過し、世界の指導者たちは、これまでに何度も核兵器のない世界という目標に合意してきました。

しかしながら、この目標は、相変わらず遠い存在のように感じます。国際的安全保障は、冷戦終結以降、最も危機的な状況に陥っています。多国間軍縮交渉は形骸化し、世界最大の核兵器国間での軍備管理交渉には、進展が見られません。同時に、危険にさらされたままの状態になっています。

核兵器は、地球、国家、人類、環境の安全保障にとって、受け入れることのできない脅威となっています。この兵器は、地球上のすべての生命を絶滅させるという、比類のない威力を持つ唯一の兵器となっています。

事務総長は、核兵器をなくすことは、人類を救うための軍縮であることを明確にしています。

そこで皆さんの出番です。我々は大胆なアイデア、革新的手法や新しい見方を求めています。若者は近年、核軍縮を含めたすべての軍縮の突破口として、大きな役割を担っています。核兵器廃絶のための国際キャンペーン（ICAN）が2017年にノーベル平和賞を受賞したとき、その組織のスタッフは、みんな35歳未満でした。

「Securing Our Common Future（人類の未来を守る）」には、国連の軍縮分野における優先課題を出しています。今後数年、私と私の部署で、このアジェンダに取り組んでいきますが、実現のためには皆さんの力が必要です。皆さんのような若者の協力があるからこそ、核兵器全廃を通じた、より安心安全な世界の実現が可能となるのです。

皆さんの今後ますますの御活躍をお祈りするとともに、国連が皆さんと共通の目標を追求して活動していく友人であることを、心に留めてもらえればと思います。